

Tezukayama

大学通信
帝塚山
University Newsletter
2009.12.25



「表紙の人」P15：榎田 翔伍さん



特集

キャリアセンターに行こう!

急速な景気後退から、大学生の就職内定状況が低下の一途をたどっています。本学のキャリアサポート体制、学部でも取り組むキャリア支援などについて、今回は特集します。

本学の取り組みが「大学教育・学生支援推進事業」(学生支援推進プログラム)に選定されました

キャリアセンターを中心とした取り組み「教育力を基盤とした全学的なキャリア形成支援体制の強化」が文部科学省の平成21年度「大学教育・学生支援推進事業」(テーマB)「学生支援推進プログラム」に選定されました。

本取組みは、本学の教育目標を念頭に置き、学士力の構築に向けた本学の教育力の強化・向上が、結果として大学教育の成果のひとつである就職に結びつくよう、各教育部門、事務部門が連携し、教職員が一丸となって学生へのきめ細かい支援を強化して実施するものです。また、就職についての指導、相談業務を所管するキャリアセンターが中心となって、学生支援、教育支援等の総合的なキャリア形成支援を推進するとともに、積極的な企業開拓の実施や、学生・教職員・保護者への各種就職関係情報の提供を行うことで、厳しい就職環境の中において高い成果を上げていくことを目指します。

本補助事業の本年度の計画は、学生支援を推進するために、
 ①必要な設備・機器の整備、企業開拓職員の採用 ②キャリア形成支援科目の充実策立案と一部実施 ③学生相談や各種講座の充実とキャリア形成支援体制の強化計画立案と実施 ④企業開拓、求人数の拡大対策立案と実施により、就職率の向上と無業者率の低下に向けた取組を開始し、推進していきます。



本補助事業で購入した電子掲示板

文部科学省と厚生労働省は11月19日、来春卒業予定の大学生の就職内定率(10月1日現在)が62.5%で、前年同期を7.4ポイント下回ったと発表しました。

下げ幅は1996年の調査開始以来最大で、就職氷河期の98年(6.1ポイント減)を超え、内定率の就職内定率は、59.6%(前年同期比9.4ポイント減)となっており、国公立大学(7.3%(前年同期比1.9ポイント減))と比べて減少幅が大きくなっています。

内定率は男子63.3%(前年同期比6.5ポイント減)、女子61.6%(同8.5ポイント減)。男女別では、男子に比べ女子の就職内定率が低く、特に私立大学の女子は、57.3%(前年同期比11.7ポイント減)となっており、女子の学校種別の就職内定率の中で最も減少幅が大きくなっています。

地区別では、関東が62.9%(同10.5ポイント減)、中部が61.4%(同6.8ポイント減)、近畿地区は65.1%(同7.2ポイント減)など、各地区

ともに下げ幅が目立ち、新規卒業者の雇用環境は大変厳しい状況にあります。

2008年秋のリーマンショックなどの影響で、日本経済は急速に不況に突入し、内定取り消しなども雇用情勢に回復の兆しが見られないこととわかり、政府は緊急雇用対策本部が10月23日にとりまとめた「緊急雇用対策」に基づき、キャリアカウンセラーの配置や職業指導、キャリアガイダンスの制度化により大学の就職支援を充実するとともに、ハローワークに就職支援センターを取り組むこととしています。

本学はこのような厳しい社会状況を踏まえ、これまで以上に全学的なキャリア支援を行うこととしています。合わせて、各学部等の教育部門および事務部門が連携し、教職員全員が学生へきめ細かな支援を実施するとともに、学生のみならず保護者の皆様方にもご協力いただき、三者が一体となって、就職活動を進められるよう、万全の体制を整備しています。

また、キャリアセンターだけでなく、学部単位でも「キャリア支援」を主眼に、社会に出てから役に立つマナー、知識、あるいは実践力を養う講座等を、これまで以上に拡充させています。

さらに、2008年度に文部科学省「質の高い大学教育推進プログラム(教育GPE)」に選定された「学生の学力・人間力・社会力の養成」(e能力ポートフォリオとe能力アセスメントを活用して)において、学生の学力・人間力・社会力の指標と基準を明確にし、学生の4年間の成長の軌跡を記録、自ら点検・管理することで、学力だけではない真に「社会に必要とされ、対応できる力」を養うことができるプログラムを構築しています。

この事業に加え、文部科学省指定の「大学教育・学生支援推進事業」においても、積極的に企業開拓の実施や就職関連情報提供のための施設設備の整備に取り組んでいます。

このように、本学では、学生の成長を支援し、社会の要請に応える実践力を備えた人材の養成に全学を挙げて取り組んでいます。

1年次からはじめるキャリア形成

希望の進路を実現するためには、充実した学生生活を送ることが何よりも大切です。

専門課程の勉強以外にも、資格取得、クラブ活動やアルバイト、ボランティア活動など、4年間の学生生活を通して、さまざまなことに打ち込んだ結果が、就職活動時の自己PRにもつながります。

本学では、キャリアセンターが、段階に応じたサポートで、学生のキャリア形成を強力にバックアップしているほか、学部単位でもキャリア支援を行い(P4)、学生一人ひとりが、自分のキャリアを自ら作り上げることができるようサポートしています。

就職活動のプロセス

1・2年次	3年次					4年次			
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
充実した大学生活を送ろう! やりたいこと、興味のあること、何でもやってみよう。「なりたい自分」をイメージしてみよう。 専門課程の勉強 資格取得 クラブ・サークル活動 ボランティア活動 留学 アルバイトなど									

保護者の皆様に協力していただきたいこと

保護者の方からの相談で感じることは、子どもの進路について関心が高く、親としてできるサポートをしたいとの思いが強いことです。保護者相談会のアンケートでも8割以上の保護者が何らかの進路支援をしたいと回答しています。

自立に向かう大学生の子どもにどう手を差し伸べればいいのか、なかなか難しいところですが。

学生達は進路の相談を通じて、将来や就職への強い不安を話してくれます。進路の悩みを一人で抱えて、不安に押し潰されそうになっている学生もいます。親に心配をかけたくないから素直に相談できずにいるのかもしれない。厳しい就職環境の中で自信をなくし、就職活動の意欲を失ってしまう学生も多くいます。学生に自信を取り戻させる手助けができるのは、身近にいる保護者の方のサポートによるところが大きいと思われる。保護者の方のサポートの例を紹介いたします。

①情報提供者としての役割

学生にとって働くことは未知の世界で、不安や恐怖を感じています。親が会社や仕事の体験談を話すことで、働くことへの興味が引き出されます。

また、学生達は仕事や働くことをしんどいと感じています。親が仕事のやりがいや面白さを語ることで、進路に向き合う勇気が湧いてくると思います。

②相談相手としての役割

「やりたいこと(仕事)がわからない」「就職活動がうまくいかない」と悩んでいる学生は多いはず。そんな様子に気づいたら、相談相手になって話を聞いてみて下さい。今までに夢になっていたことや長所をたくさん伝えて下さい。親からいいところを認められると自信を取り戻すはず。今まで見守ってきた親だからこそできるサポートです。



2009~2010年度 就職活動支援行事等

日程	対象	プログラム
1月	中旬	3年 第3回就職ガイダンス
2月	6日(土)	3年 3年生保護者対象就職説明会(予定)
	上旬	3年 就職活動のためのオープンセミナー⑧
	上旬	3年 就職活動のためのオープンセミナー⑨
	上旬	3年 就職説明会
	中旬以降	3年 進路挽回講座(筆記対策講座)
3月	23日(火)~26日(金)	3年4 リクルーティングフェスタ
	2日(火)~4日(木)	3年4 リクルーティングフェスタ
	6日(土)	2年 2年生保護者対象就職説明会(予定)
4月	上旬	1年 新入生対象キャリアセミナー(GATB一般職業適性検査)
	上旬	2年 2年生キャリアセミナー(SDSキャリア自己診断テスト)
	中旬	1年 エクステンション講座(募集説明会)
	中旬	2年 エクステンション講座(募集説明会)
	中旬	3年 エクステンション講座(募集説明会)
	中旬	4年 エクステンション講座(募集説明会)
	中旬	1年 「特別資格サポート制度」相談会(提携校と直接相談会)
	中旬	2年 「特別資格サポート制度」相談会(提携校と直接相談会)
	中旬	3年 「特別資格サポート制度」相談会(提携校と直接相談会)
	中旬	4年 「特別資格サポート制度」相談会(提携校と直接相談会)
5月	下旬	3年 第1回就職ガイダンス(就職活動準備スタート/みんなのためのキャリアセンター紹介)
	上旬	3年 就職支援特別講座(就職力をつける講座スタート)

※詳細については、各キャンパスキャリアセンターにご確認下さい。

人文学部・人文科学部

■日本文化学科

史跡見学や博物館見学、演劇鑑賞など、毎月1～2回は学外実習を行っています。本物の文化財や芸術に直接触れ、実際に体験することで、日本文化に対する興味を喚起し、理解を深めます。

また、学芸員を目指す学生は、本学附属博物館で実習を行うことができます。通常は学外の博物館に派遣され、その施設の指導員のもとで実習を行います。本学では学内施設で、本学教員が実習指導を担当できるという強みがあります。

■英語コミュニケーション学科・英語文化学科

授業の一部に実践力を養う学外実習を取り入れ、法隆寺などでプロの通訳ガイドから英語と日本語で講義を受け、観光ガイドとして必要なスキルを学びます。

また、TOEICやTOEFL、英検、観光英検、通訳案内士などの資格取得関連科目が充実。就職活動に生かせる資格合格に向けた実践的な知識を習得します。

経済学部

経済学科

就職活動に役立つ経済知識の蓄積を確認するために「日経TEST（経済常識版）」を学内で実施しているほか、外部講師による特別講義「日経新聞の読み方」を開講し、就職活動に生かせる経済専門紙の読み方をわかりやすく解説しています。

また、近畿財務局提供の特殊講義や野村證券（株）による寄附講座では、金融や実際のビジネスに関する講座を受講できる機会を設け、業界研究にも役立つよう配慮しています。

経営情報学部

経営情報学科

「実」学士力の保証

学部独自の学士力保証と就職活動支援を目的に、公的資格の取得を支援するカリキュラム運営を行い、2006年度入学生より、日商簿記検定試験3級合格を卒業要件に加え、その目的達成のために「簿記合宿」、「簿記クリニック」を実施しています。

また、「アドバンス演習」を設け、「中小企業診断士・ファイナンシャルプランナー（経営）」、「ITパスポート・基本情報処理技術者（情報）」、「公認会計士・税理士（会計）」の資格取得支援を行っています。さらに、企業への関心を高め、理解を促進するためにも、「インターンシップ」への積極的参加を呼び掛け、同プログラムへの全学参加者の4割は本学部の学生が占めています。

法政策学部

ビジネス法学科・公共政策学科

警察官を目指す学生のために、「警察官実務講座」を開講。警視庁、ならびに各府県警から現職の警察官を講師として招聘し、日頃の警察業務や警察官になるための心構えについて講演していただいています。

また、一次試験対策のための公務員演習、二次試験対策のための面接対策講座や体力作りのための特殊講義を学部独自でも開催し、公務員志望の学生を多面的に支援しています。

本年度より開講した「ビジネス実務講座」では、就職活動を戦略的に成功させるためには何をすべきかについて講師よりお話しいただき、学生の就職活動に役立つノウハウを提供しています。

学部でも取り組む キャリア支援

心理福祉学部

■心理学科

全国各地でフィールド研究を推進。調査・研究の分野に進む学生が実践的に学べるようにしています。また、生駒市との協定のもとに、不登校児童・生徒が通う適応指導教室で、学生ボランティアが、生活や学習を支援しているほか、スクールサポーターとして地域の幼稚園や小学校で特別な支援を必要とする子どもたちをサポートするなど、就職に生かせる“経験”を学生に提供しています。

また、併設の「こころのケアセンター」を、臨床心理士を目指す学生の教育訓練施設として活用しています。

■地域福祉学科

社会福祉士や精神保健福祉士合格を目指す知識を体系的に習得できるカリキュラムを準備。さらに、地域の福祉機関や施設と連携し、現場実習科目も充実させています。その実習先の施設に就職が決まるケースもあります。

また、生駒市との連携で子育て支援ボランティア活動を実施しているほか、福祉団体と共催して、知的障がい者対象のオープン・カレッジを開催し、在学時より卒業後の進路を見据えた活動を広く行っています。

現代生活学部

■食物栄養学科

管理栄養士を目指す学生のために、1年生の基礎演習の授業において国家試験に向けた講義を開始。3年生の後半から特別補習授業を開講するなど、学科教員が一丸となって国家試験合格に向けて全面的にサポートしています。

また、管理栄養士を講師に招き、実際の業務内容などについて学生が質問できる機会を設け、学生の進路への動機付けを行っています。

■居住空間デザイン学科

建築士やインテリア関連の資格をはじめとして、さまざまな資格の取得に力を入れており、そのための準備講義が設置されています。

1年生から設計製図や計画学などの専門科目を系統的に学ぶカリキュラムを用意し、建築士やインテリアプランナー志望の学生をきめ細かく指導できる体制を整えています。学外授業に建築現場見学を取り入れ、実際に住宅構造を見学したり、強度実験を行うことで、“知識”を“実践”に結びつけられるよう配慮しています。

■こども学科

保育士・幼稚園教諭・小学校教諭の3つの資格が取得可能なカリキュラムを準備。将来の進路に応じて複数の資格を取得することができます。

また、併設の子育て支援センターで、親子のふれあい遊びなどに運営ボランティアとして参加することで、低年次から実践的な体験ができる機会を提供しています。



観光経営コース

観光経営コースは、2010年度に経営情報学部は、観光・ホスピタリティ産業におけるマネジメント人材を育成する「観光経営コース」を新設します。

観光庁は、2009年4月のプロジェクトチームによる中間報告書の中で、観光系大学における教育と産業界のニーズとの乖離を埋めるために、「人文・地理」に偏る観光教育から、観光経営マネジメント教育への転換が必要であると述べています。

経営情報学部は、そのような時代の要請も踏まえて、標準的なマネジメントスキル（経営戦略、IT、会計、財務、マーケティング、人事・組織など）の学習に加え、観光・ホスピタリティ産業における経営についても学習します。さらにインターンシップを通じて観光・ホスピタリティ産業の実際を体験することにより、理論と実践の両面をバランスよく身につけた専門的なマネジメント人材を育成します。

経営情報学部 観光経営コース開設!!



飛鳥保存財団連携協力シンポジウムを開催しました

10月18日、本学と飛鳥保存財団連携協力シンポジウム（テーマ「時空を超えた飛鳥文化」―日本伝統文化から飛鳥を考える―）を、昨年に引き続き、国営飛鳥歴史公園石舞台地区にて開催しました。

本シンポジウムは、昨年7月18日に、本学と飛鳥保存財団が飛鳥をフィールドとした生きた大学教育の推進、並びに飛鳥地域の保存・発展に貢献することを目的に締結した協定を受けて開催されるもので、今年は、国営飛鳥歴史公園の開園35周年記念事業のひとつとしても位置づけられています。

爽やかな秋晴れのもと開催され、約300名の歴史ファンらが集い、中山副学長の挨拶で開始しました。引き続き行われた講演では、本学の水上勲名誉教授による曾我入鹿の首伝説や、中谷克己人文学部教授による奈良の妖怪、中島一裕人文学部教授による古代言語に関する話等が行われ、熱心に耳を傾ける参加者の姿が見られました。本学の学生は古代衣装をまとい受付を担当したほか、放送研究会の司会進行や、吹奏楽部の演奏、茶道部による野点でイベントを盛り上げました。



国際シンポジウム「コンテンツビジネスの人材育成モデル」を開催

9月24日、大阪・中之島の大阪サテライトキャンパスで、中国と韓国の知的財産・教育研究の専門家を招き、国際シンポジウム「コンテンツビジネスの人材育成モデル」を開催しました。

本シンポジウムは、平成18年度文部科学省の「産学連携による実践型人材育成事業～長期インターンシップ・プログラム開発～」で採択された「マルチプレイ型コンテンツ知財専門人材育成」の一環として実施したものです。

当日は、「帝塚山大学におけるコンテンツ人材育成モデルの紹介」と題し、本学大学院法政策研究科高榮洙教授が本学の取り組みを紹介したほか、コンテンツ分野において急成長を遂げている中国や韓国の専門家が、各国のコンテンツビジネス人材育成モデルについての講演を行いました。

続いてのシンポジウムでは、パネリストが活発な議論を展開。コンテンツ産業の発展のためには、技術やビジネス能力に加え、語学力を兼ね備えた人材育成が急務であり、また産学連携の活性化が重要であるとの認識を示しました。さらに、シンポジウムの後は、会場を訪れた40名を超える研究者や弁護士、弁理士らと交えて、熱心な質疑応答が繰り広げられました。

寺島実郎氏監修 リレー講座始まる

本学では2006年度より、財団法人日本総合研究所会長・株式会社三井物産戦略研究所会長である寺島実郎氏監修のもと、世界各地の状況、国際社会における日本の立ち位置、また日本国内や地球環境に至る諸問題を多角的に取り上げた、特別講義を開催しています。



寺島実郎監修リレー講座 第四弾 帝塚山大学・特別講義 現代解析講座「世界の構造転換と日本の進路」

今年度は『世界の構造転換と日本の進路』をテーマに、10月9日に開講式を行い、学校法人帝塚山学園・山本順英理事長の挨拶に引き続き、寺島実郎氏による第1回目の講座を行いました。本学学生21名と一般（社会人）約160名が熱心に耳を傾けていました。1月15日の最終講義まで10回にわたり下記内容の講義を行います。

講義内容

第1回	世界潮流と日本の進路	寺島 実郎氏 (財)日本総合研究所会長、 多摩大学学長、 (株)三井物産戦略研究所会長
第2回	中国の景気回復と 日本経済への影響	沈 才彬氏 多摩大学経営情報学部、 同大学院教授
第3回	オバマ政権はどこに向かうのか?	渡部 恒雄氏 東京財団政策研究部ディレクター、 上席研究員
第4回	東北アジア・コモンハウスへの道	姜 尚中氏 東京大学大学院情報学環教授
第5回	内外景気の現状と今後の見通し	嶋中 雄二氏 三菱UFJ証券(株)参与、 景気循環研究所長
第6回	21世紀中東の新しい構図	山内 昌之氏 東京大学大学院総合文化研究科教授
第7回	宇宙太陽発電所と無線電力伝送 技術がもたらす新しい世界	松本 紘氏 京都大学総長
第8回	米一極支配後の世界と ロシアの伸長	天江 喜七郎氏 同志社大学客員教授、 元駐ウクライナ大使
第9回	格差社会の行方	橋本 俊昭氏 同志社大学経済学部教授
第10回	世界潮流と日本の進路	寺島 実郎氏 (財)日本総合研究所会長、 多摩大学学長、 (株)三井物産戦略研究所会長

「産経eカレッジ」開催

8月4日～9月15日の間、産経新聞社とNPO・CCC-TIESの夏休み特別企画「産経eカレッジ みんなde大学」を昨年に引き続き開催しました。

「産経eカレッジ」では、本学のeラーニングシステム「TIES」の加盟大学だけでなく、中国も含め、18大学から37名の教員が参加し、119本の講義ビデオを無料でネット配信しました。約1万名からのアクセスがあり、参加者から「ビデオ内容がユニークで充実していた」「受講料を払ってでも、専門的に学びたい」などの声を多数いただきました。

〈ナント〉 農商工ビジネスフェア 2009に出展

12月8日、本学は産学連携の取組みの一環として、昨年に引き続き「第8回 元気企業ビジネスフェアNANTO×第3回ナント「食」の商談会 農商工ビジネスフェア2009」（主催：南部銀行 南部経済センター）に、ブース出展しました。

このフェアでは、出展企業と来場者のビジネスマッチングを図るのが狙いで、教育機関からは、同行と産学連携を行っている10機関（大学・高专）が出展しました。

本学ブースでは、大学の紹介とともにeラーニングシステム「TIES (Tezukayama Internet Educational Service)」を出展し、大学連携の取組みや収録授業の紹介を行いました。ブース来訪者の方々からは、本学の取組みに強い関心が寄せられました。

帝塚山大学 奈良学総合文化研究所主催公開講座

「名品名作誕生Ⅶ —仏像の美 インド・中国・日本— 」開講決定!!

本学奈良学総合文化研究所の人気公開講座「名品名作誕生Ⅶ—仏像の美 インド・中国・日本—」が本年度も開催されます。開講は、2010年2/13、2/20、3/6、3/13（いずれも土曜日 時間：10時半～12時 場所：東生駒キャンパス）の4回。聴講は無料ですので、ぜひご参加ください。各講座の詳細は、下記アドレスのホームページにてご確認ください。

奈良学総合文化研究所ホームページ

<http://www.tezukayama-u.ac.jp/GEIBUN/index.html>

第61回正倉院展協賛を記念して 様々なイベントを開催

関根教授は、約1500人の出席者を前に、正倉院展の主な展示宝物について一つずつ画像で取り上げ、それぞれの見所について他のパネリストの眞野響子さん（女優）や沢田むつ代さん（東京国立博物館特任研究員）らとエピソードを交えて紹介しました。

その後、10月24日に「高校教員のための正倉院展講座」を、10月25日には「中学生・高校生のための正倉院展講座」を奈良県新公会堂にて開催しました。



本学は、2006年度より正倉院展に協賛しています。協賛を記念して、今年も関根教授（人文学部日本文化学科学科教授 奈良学総合文化研究所長）を中心に、福岡での正倉院フォーラムを皮切りに様々な関連イベントを開催しました。

第61回正倉院展の魅力語る「正倉院フォーラム2009福岡」（主催：読売新聞社/NHK等）（主催：読売新聞社/NHK等）は、9月5日福岡市中央区のアクロス福岡で開催され、関根教授がパネリストとして参加しました。

講義は、関根教授を講師に、正倉院の宝物等についてスライドを使ってわかりやすく解説し、講義終了後は、正倉院校舎の見学や、大仏殿の登壇参拝、奈良国立博物館で開催中の正倉院展を見学しました。

講座には、愛知県から岡山県までの幅広い地域からの約60名の高校教員の方や、奈良県立高田高校の生徒の皆さん（午前中に特別講義を開催）、そして広島等、遠方からの多数の中学生・高校生および保護者の皆様に参加いただき、「博物館で実物を見ながら、ご講話くださった内容を思い出し、遙かな歴史の流れに思いを馳せることができました。また歴史とともに「奈良」という地域が身近に感じられたことも収穫でした。」等温かいお言葉を多数いただきました。

本学では、このほかに帝塚山大学考古学研究所・附属博物館共催「市民大学講座」や東京の奈良まほろば館主催平城遷都1300年記念講座「産官学連携セミナー」古都奈良の歴史・文化への誘いにて、正倉院展の魅力についての講座を行いました。



阪神奈大・研究機関リレー講座 公開講座フェスタ2009に参加



本学および本学考古学研究所・附属博物館が、昨年度に引き続き、公開講座フェスタ2009に参加しました。公開講座フェスタは、大阪府と大学・研究機関が生産学習機会の継続的な提供を目的とし、大阪府・兵庫県・奈良県・和歌山県という府県の枠を超えて、大阪府中央区谷町の大阪府庁別館を会場にリレー講座を毎年実施しているものです。

今年「生きる力」を統一テーマに34の大学並びに研究機関が参加し、本学は、11月12日に、森都夫教授（人文学部日本文化学科学科教授、考古学研究所長、附属博物館長）と、坂野勝彦教授（法政策学部ビジネス法学科教授）が担当しました。

森教授は、「墓誌にみる奈良時代に生きた人々」をテーマとし、古代墓誌に記された様々な階層の人たちの生き様について講義を行い、多くの歴史ファンの期待に応えていました。

また、坂野教授はご自身の20余年に渡る海外生活のご経験を踏まえながら、国際化・雇用・地域社会・新政権の行方など、現在の日本が抱える様々な問題に鋭い切込みをいれ、質疑応答では忌憚のない意見が交わされるなど、多くの参加者がこれからの日本の行く末について考えていました。



講義終了後も質問を受ける坂野教授



虹色祭

MISS帝塚山決定!!



今年の帝塚山MISS No.1コンテストには、各学部からの計7名の学生が参加しました。審査は、ウォーキング、ファッション、演技の総合点で競われ、グランプリに宮本綾奈さん(現代生活学部こども学科)が、準グランプリに土井知沙果さん(人文科学部日本文化学科)がそれぞれ選ばれました。グランプリに輝いた宮本さんは、「ナビータなら」(ならどっとFM発行の地域情報誌)の2010年冬号の表紙を飾ります。

虹色祭のラストには、熱気に包まれたダンスの披露「DANCE PANIC2009」が開催され、フィナーレには打ち上げ花火があがり、今年の虹色祭の幕を閉じました。

10月11日・12日に学生が企画・運営する大学祭、帝塚山大学「虹色祭」が東生駒キャンパスで開催されました。今年のテーマは「千年に一度しか巡り会えないほどまれな出会い」という意味の「千載一遇」です。様々な「出会い」を大切にしたいという思いからこのテーマに決定しました。

11日は、各館で吹奏楽部や演劇部など文化系サークルの発表が行われ、グラウンドでは学生ソフトボール大会が行われました。また、今年同窓会提供による「移動動物園」が第2グラウンドで開催され、親子連れなどたくさんの人たちがかわい動物たちを癒されていました。

12日には、たくさんのお店が出揃う中、「イケメンコンテスト」や、近隣美容師さんに安値でカットしてもらえ「チャリティーカット」、留学生のスピーチコンテストや、もう中学生やガリガリガリクソンら芸人による吉本ライブ等が行われ、一般客を含む多くの人たちでにぎわいました。



「その君と一緒に健康目指そうよ!」
ヘルスチーム

奈良県の女性の健康支援対策事業の取組みの一環として、現代生活学部食物栄養学科では、2年生を中心に4年生がサポート体制を敷く、ヘルsteamが活動しています。今回、東生駒キャンパスで行われた虹色祭にもヘルsteamは参加しました。

「私達の身近な人の健康を応援しよう」をテーマに、若い女性の代表である女子大学生とその身近な人々に対して健康チェックを行い、健康への関心を持ってもらう、そして健康サポートをしようという企画でしたが、何しろ、2年生は専門科目の栄養学も栄養指導も勉強を始めたばかりだったので、準備も大変でした。

しかし、当日は天候にも恵まれ、心配をよそにヘルスチェックのイベントには、100名を超す多くの方々に参加して下さいました。血圧は測定しただけでなく、肺活量も測って測るなど、「ロク」に、男子大学生も先生もご家族の方も大学近隣にお住まいの方でも大人も子どもも楽しんで測定をし、食事バランスガイドチェックでは学生からのアドバイスを真剣に聞いてくださいました。健康には関心があるけれどなかなか・・・という方達に少しはサポートできたかなと思える1日でした。

食物栄養学科の新取組み ヘルsteam 虹色祭に参加

薬物防止キャンペーンを大学祭で実施

本学では、学生・教職員の禁止薬物に対する意識を高め、大学全体として防止活動に取り組んでいます。これまで①構内での薬物乱用防止ポスターの掲出、②啓発用リーフレットの配布、③在学生有志による、同リーフレットの個別配布活動、④ホームページでの掲示、などさまざまな啓発活動を実施してきました。

本活動の一環として、10月11日・12日に開催の大学祭(虹色祭)では、薬物乱用防止リーフレットとともに、本学学生により考案された啓発用缶バッジを来場者の方々に無料で配布しました。

本取組みは、「帝塚山大学生は薬物には決して関わらない」というメッセージを、社会に発信していきたいとの学生の声を受け、本学が支援し実現したものです。同缶バッジの大きさは約3センチ。赤地に白の×印と紺色の「あかん!薬物!!」のロゴを大きく配し、強いメッセージを伝えます。

また、当日は、奈良県の薬務課担当者や在学生が協同で薬物乱用防止啓発活動を行ったほか、図書館で薬物乱用防止映画を上映、学生スタッフ、教職員らも缶バッジをつけ、全学で薬物乱用防止活動を実施しました。

本学では、今後も継続して薬物乱用防止活動に取り組んでいきます。



高校生ビジネス・アイデア・コンテスト2009

11月15日、経営情報学部、経済学部、法政策学部主催「高校生ビジネス・アイデアコンテスト2009」上位入賞者によるプレゼンテーション及び表彰式を行いました。最終審査では、入賞者が一人ひとり壇上でパワーポイントを駆使してプレゼンテーションを行い、独自のアイデアをアピールしました。個性光るアイデアが飛び出す中、最優秀賞を獲得したのは、愛媛県・私立愛光高等学校の村上遼さん(写真右)による「ボランティアポイントでつくる『マイシルバライフ』」でした。受賞後のインタビューで村上さんは、「地方にある地元を活性化したいと普段から考えていました。そこで高齢者へのボランティアが浮かび、個人が、資格がなくても参加できるものを考えたいと思いました。最優秀賞を獲得でき、遠くからきた甲斐がありました。」とコメント。

本コンテストは、若者(高校生)の知恵を新しいビジネスに生かそうと2002年より毎年開催しているイベントで、年々その参加者は増え、今年は1602件の応募がありました。審査委員長の落合副学長は、「アイデアは考え続けることが大切。そのことが新しい商品を生み出すことにも繋がります。アイデアノートを作るなどして、ぜひ自分のアイデアを大切にしてください。」と表彰式を締めくくりました。



賞	テーマ	氏名	高校名	学年
最優秀賞	ボランティアポイントでつくる「マイシルバライフ」	村上 遼	愛光高等学校	2年
優秀賞	目指せNO.1ランナー!!	一条 彰一郎	滋賀県立大津商業高等学校	3年
奨励賞	くるくるふせん	小原 由衣	京都府立京都すばる高等学校	1年
奨励賞	2色ボール修正ペン	川原田 茜	京都府立京都すばる高等学校	1年
奨励賞	有料学童保育ステーション	桑野 瞳	同志社香里高等学校	3年
佳作	楽しんで発電ECO ～自分たちの未来のために～	金城 春香	奈良県立榛生昇陽高等学校	1年
佳作	ポンPUSH☆リンス	久保田 美希	京都府立木津高等学校	2年
佳作	農上開発	河野 雄透	同志社香里高等学校	3年
佳作	高齢者の人も楽しめるスポーツ広場	田中 怜奈	大阪市立市岡商業高等学校	3年

※上記各賞のほかに、敢闘賞59名、もう一歩賞98名、団体協力賞34校が選ばれました。

富雄公民館での「外国人の日本語講座」



本学では、地域貢献の一環として、富雄公民館で開講されている「外国人入門講座」に、留学生を講師として派遣しています。もともと本学で開講していた会話道場から始まった同講座は、4年前から、前期・中国語講座、後期・ハンガール語講座を開講。今期は、9月から3ヶ月にわたり、ハンガール入門講座を計9回実施しています。地元では評判の教室で、今回は10名の生徒募集に対し23名の応募がありました。「ハンガール入門」の授業を受け持つのは、経営情報学部3年生の玄恵環さん。三回目の授業では、ハンガールの発音について丁寧に説明しており、中々の講師ぶりを発揮していました。「編み下リムの台詞を理解したい」「会話の練習がしたい」など、参加者の目的は様々ですが、皆さんが熱心に授業に臨んでいます。参加者の中には、さらに勉強を続けたいと自主グループを結成し、講座終了後も本学留学生に会話を習っている人もいます。講師の玄さんへ、「授業の構成や、説明に苦勞することもあるが、熱心に取り組める生徒さんの顔を見ると嬉しい」と笑顔で話していました。なお、同講座の好評を受け、三笠(新大宮)公民館でも、今期より本学留学生による中国語講座を開講する計画となりました。

「ふれあい点字フェスタ」に学生ボランティア参加



8月21日、奈良市総合福祉センターにおいて開催された「ふれあい点字フェスタ」に、本学より11名の学生がボランティアとして参加しました。この催しは、今年が、6点式の点字を考案したルイ・ブラユの生誕200年と、日本の五十音点字を完成させた石川真次の生誕150年に合わせて開かれたものです。学生は企画の段階から参加し、「遊び」と「学び」の2つのブースで活動しました。点字や触る絵本、さまざまな体験を通して視覚障がいへの理解を深めることができました。参加した学生は「楽しかったし、視覚障がいの方や支援者の方々と話し出来て大変勉強になりました。」と感想を述べていました。

「親子のつどい」好評のうちに終了



現代生活学部子育て支援センター(愛称:まっほくろ)では、10月24日、11月14日、12月5日の3日間、3歳以上就学前までの子どもとその保護者を対象に、「親子のつどい」と題したイベントを開催しました。初回は、本学子ども学科 鶴宏史講師による「子どものからだを育む遊び」。同学科の学生が、折り紙で飾り付けを施した「まっほくろ」に、小雨の降る中、10組を超える親子が集いました。最初の自己紹介で恥ずかしがっていた子どもたちも、「電車じゃんけん」、「ドッジボール」とさまざまな遊びに参加しているうちに、すっかり緊張が解けた様子で、鶴講師から新たな遊びを紹介されることに歓声を上げ、笑顔で踊ったり、飛び跳ねたりしていました。そのほかにも、絵本の読み聞かせや、「まっほくろ」にあるおもちゃを使っている遊びなど、盛りだくさんのイベントに、参加した親子は楽しいひとときを過ごせたようです。最後に、「おかたづけの歌」のメロディーに合わせて、自分たちが使ったおもちゃを片付けると、急に寂しくなったのが、帰りたいくないと子どもが泣き出す一幕も。「また来ようね」と保護者になだめられている微笑ましい光景も見受けられました。本学子ども学科の学生ボランティアも、同イベントに運営スタッフとして参加し、ピアノの伴奏や体操の指導、読み聞かせなどを行いました。実際に子どもと触れ合う機会を得たことで、学生も自分たちの進路への決意を新たにしようとしています。

次回は、子ども達と自由に遊ぶイベント「つどいの広場」を、2010年1月14日、1月21日、2月4日、2月25日、3月4日、3月18日に同センターで開催します。詳しくは同センターまでお問い合わせください。
(問い合わせ先:現代生活学部 子育て支援センター まっほくろ)
TEL 0742-88-6000

特定非営利活動法人
大学院連合メンタルヘルスセンターが
いよいよ始動!

働く人たちの心理的支援を行う心理専門家の養成に注力してきた本学及び関西福祉科学大学、帝塚山学院大学の大学院では、産業現場での支援活動をさらに充実・発展させることを目的にNPO法人 大学院連合メンタルヘルスセンターを5月に設立しました。

7月・8月にオープニングセミナーを行い、本学からは同センター理事の神澤創教授並びに宮川治樹准教授が講師を務め、好評を博しました。また11月にはストレスマネジメントに関する第二回セミナーを開催し、12月12日には、龍谷大学大学院の島田修教授、パナソニック健康保険組合の臨床心理士として活躍の篠原博子先生を招いて、本学大学院生の鹿野麗子さんが本学附属教育研究施設「こころのケアセンター」で扱った事例にもとづきグループ・スーパービジョン*1を行いました。この企画は、臨床心理士を目指している大学院生の力をつける場として、また現在第一線で活躍されている臨床心理士のさらなる資質向上を目指し、人事労務担当者、産業保健スタッフの方々の参加も得て初のライブ・スーパービジョンを試みたものです。なお、2010年には、3月13日に第三回セミナーを開催します。



お問い合わせは、
e-mail: t-moris@tezukayama-u.ac.jp
(帝塚山大学大学院 産業心理臨床領域 森下研究室)
までお願いします。

*1 スーパーバイザー(指導する者)とスーパーバイジー(指導を受ける者)との関係における対人援助法



オープン・カレッジ in 帝塚山大学
を開催しました

この日は猛暑の中ではありませんでしたが、午前中は難しい講義を熱心に受け、午後からは、体育でボールを追いかけて汗を流す人、美術で貼り絵に夢中で取り組む人など、さまざまに楽しみ、受講生も学生も共に学び、充実した楽しい時間を過ごしました。オープン・カレッジは8月から12月までの間全5回を開催。よりいっそうの学生の参加が期待されます。

8月16日に、本年度第一回目のオープン・カレッジ in 帝塚山大学を、学園前キャンパスで開催しました。オープン・カレッジは、18歳以上の知的障がいを持つ方を対象に開いており、本学で学生が主体となつての開催は、今年で4年目となります。午前中は福祉の制度と「心と身体の危機管理」、午後からは「体育」と「美術」の講義を行いました。24名の受講生が参加しました。

ヘルマンハープ同好会を立ち上げました

ドイツ生まれの「ヘルマンハープ」が、学園前キャンパスでにわかに注目を集めています。この楽器はダウン症のご子息のために父親のヘルマンさんが考案された、誰でもすぐに演奏できるバリアフリーの楽器です。今年9月末には、日本ヘルマンハープ協会認定のインストラクター4名を招き、学園前キャンパスでコンサートを開催しました。100名近くの学生をはじめ、障がい者から子ども・高齢者が集まり、響き渡る心を癒す深い音色に包まれ、夕暮れの教室に感動が広がりました。



12月1日には、心理福祉学部心理学科の学生を中心にヘルマンハープ同好会(顧問:三木善彦・心理学科教授)を立ち上げ、今冬より本格的に定期的な同好会活動を始めました。学生組織として、大学のイベントや施設訪問で演奏活動が出来ればと考えています。関心のある学生は、心理福祉学部ボランティアルームまでご連絡ください。(場所:16号館7階 電話番号:0742-41-4602)

埼玉の中学生ら
人文学部清水教授を訪問

11月11日、埼玉県開智中学の生徒4名が、本学人文学部の清水久子教授の研究室を訪れました。同校では、生徒自身が興味を持ったテーマを、フィールドワークで探求、考察し、その成果を発表するというカリキュラムを設けています。今回の来訪は、フィールドワークのテーマに源氏物語を選んだ同校の生徒が、インターネットで専門家を検索した結果、清水教授に行き当たり、人文学部・人文科学部事務室に直接連絡してきたことがきっかけとなりました。



生徒のひとりには、「百人一首の紫式部の和歌が好きで、源氏物語に興味を持った」と話し、本学への訪問に先駆け、宇治の源氏物語ミュージアムや御所の特別展示も見学してきたそうです。清水教授が、研究室で江戸期の源氏物語の巻物を広げると、生徒らは身を乗り出して観察し、その説明のひとつひとつを聞き漏らすまいと熱心にメモを取っていました。また、先日ユニットにもなった新たな「大沢本」の写本について質問するなど、清水教授も舌を巻くほどの知識を披露。さらに、源氏物語内の和歌にまで話が及び、聞きたいことが多くて時間がいくらあっても足りないようでした。

中学生たちは清水教授からプレゼントされたお土産の源氏物語千年紀展の図録を片手に、「古文は難しいと思っていたけれど、更に興味を持つた。来て良かったです」と語っていました。「質問があれば、いつでも連絡してください」と清水教授から声をかけられ、嬉しそうに頷いていました。

保護者相談会を開催しました

本年度の保護者相談会を、9月13日に本学会場（東生駒キャンパス・学園前キャンパス）で開催し、200名を超える保護者の皆様の参加でにぎわいました。



同会は保護者と大学教職員の相互理解を深めるため、大学後援会のご支援により毎年開かれ、日ごろ大学を訪れる機会のない保護者から好評を博しています。

本学会場では、大学食堂でのランチ試食ののち、メインの会場で、学長の挨拶、副学長から学生生活や就職状況についての説明を行い、その後キャンパス見学ツアーや、成績・履修、就職、学生生活、留学等に関する個別相談なども行いました。

9月20日には、大阪、岡山、高松、和歌山の各会場でも保護者相談会を開催し、保護者が大学教職員と飲食を共にしながら、大学に関する意見交換を行っていました。

本年度の保護者相談会には、各会場あわせて250家庭、350名の保護者の皆様にご参加いただきました。

本学附属博物館において、第12回特別展示「新収の文化財 法隆寺長老 高田良信師寄贈資料」を10月15日～11月14日の間、開催しました。

今回の特別展示は、法隆寺高田良信長老が長年かけて収集された、中国・朝鮮・日本の瓦、青銅器、陶器、仏教美術など、約200点の文化財を、2009年4月に本学にご寄贈いただいたことを記念し、企画したものです。

10月15日の開会式には、高田長老をお招きし、山本学長から感謝状と記念品を贈呈しました。その後、附属博物館の森郁夫館長の解説とともに、ご来場の方々に貴重な文化財をご鑑賞いただきました。



帝塚山大学附属博物館
法隆寺長老 高田良信師より
貴重な文化財を寄贈 特別展示を開催

本学附属博物館では、約3000点の中国・朝鮮・日本の古代瓦を所蔵しています。これまでも瓦を切り口にして、特別展示展や公開講座を実施するなど、一般市民の方々にも広く門戸を広げ、文化財保護精神の育成に努めてまいりましたが、このたび本学附属博物館が企画する瓦保存推進事業「地域の人々と知る、古代の木造建造物保存のための瓦の役割」が、文化庁が支援する「美術館・博物館活動基盤整備支援事業」に採択されました。

この事業は、社会の変化に対応する博物館の活動基盤に焦点をあて、「地域との関係の強化」に資する優れた取組みに対して支援を行うものです。

この採択を受け、本学附属博物館では、11月8日～12月13日の間、4回に亘り、一般市民の方を対象に「瓦」に対する理解と文化的価値を伝えるための体験授業を行いました。瓦作りの体験には、文化庁認定日本伝統瓦技術保存会山本清一会長並びに鈴木啓之講師に指導をお願いし、参加者たちは瓦作りを通して瓦を身近に感じるとともに、文化財保護の重要性を実感していました。



瓦の拓本をとる参加者たち
(11月8日)



興福寺で中世の瓦を観察する参加者たち
(11月15日)

帝塚山大学附属博物館
文化庁「平成21年度美術館・博物館活動基盤整備支援事業」に採択

図書館からのお知らせ

●学生選書会

図書館では2003年2月以来、毎年数回にわたり学生が大型書店に赴き、図書館に置いて欲しい書籍を直接選んでもらう「学生選書会」を実施しています。今年は、6月6日、10月24日、12月5日の3回にわたって行い、多数の専門書や一般教養書を選びました。参加した学生からは、「自分の読みたい本を買うことができよかった」「自分ではなかなか買えない本を選ぶことができよかった」などの声をもらっています。

【学生選書会への参加方法】

毎年開催時期が異なりますが、例年春と秋に実施しています。詳細については学内掲示板等にポスターで掲示します。申込みは図書館カウンターに申し出て下さい。



東生駒キャンパス 図書館



学園前キャンパス 図書館

●定期試験期間中の利用時間の拡大について

試験期間中、東生駒キャンパス図書館では利用開始時間を30分繰上げ、8時30分から利用することができます。図書館の静かな環境を利用して、試験勉強に励んでください。

クラブ活動 ニュース

女子バレーボール部



秋季リーグ戦優勝 4部リーグ昇格!!

「関西 大学バレーボール連盟」秋季リーグ戦において、全勝でリーグ優勝を決めた本学女子バレーボール部。11月1日、4部リーグへの入替戦が本学で開催され、見事滋賀大学を3-0のストレートで下し、4部リーグへ昇格を果たしました。

レスリング部

アルキメデス選手権大会 で初出場 銀メダル獲得!!

9月6日、関西大学体育館において、レスリング経験の浅い選手を対象とした大会「アルキメデス選手権大会」が開催され、本学からは1名谷口巨樹さん（法政政策学部1年）がエントリーし、96kg級で銀メダルを獲得しました。

谷口さんは、高校3年生からレスリングを始め、192cmという恵まれた体格を生かし、大学入学後は徐々に頭角を現し、今回の成績へと繋がりました。

次年度の同大会にも出場資格がある谷口さんの今後の活躍にご期待ください。



ボクシング部



第63回近畿学生ボクシングリーグ戦で好成績!!

5月〜7月の間に開催された第63回近畿学生ボクシングリーグ戦で、ボクシング部が昨年度に引き続き好成績を収めました。階級別で大口さんは初優勝を飾り、米尾さんは昨年度のライトウェルター級優勝に続く2階級制覇を達成しました。

また、団体成績では6年ぶり2度目の3部リーグ準優勝（昨年度は3位）を果たしました。その他、2009年度全日本アマチュアボクシング選手権京都府代表選考会「ライトウェルター級」で米尾さんが準優勝（昨年度は優勝）しています。

第63回近畿学生ボクシングリーグ戦 階級別試合結果

階級	氏名	成績
ミドル級 (75.0kg以下)	大口昭人 (経済4年・高石高)	優勝
ウェルター級 (69.0kg以下)	米尾遼哉 (経済3年・南京都高)	優勝
ライトウェルター級 (64.0kg以下)	満生真明 (公共政策3年・五條高)	準優勝

硬式野球部

秋季リーグ ベストナイン表彰!!

本学硬式野球部が、1部リーグに所属している阪神大学野球連盟の2009年秋季リーグ戦において、1部残留を決めました。また、石田亮介選手がベストナインとして個人表彰されました。



ラグビー部

関西 大学Bリーグ5位!!

9月20日から開催されたラグビー「関西大学Bリーグ」において、ラグビー部は、昨年から順位を一つあげ、5位の成績を収めました。リーグ戦最後の大阪教育大学との最終試合では、14点差を終盤一気に追いつけるなど、今シーズンのラグビー部は、一段と力強さを増しました。

試合終了後、チームを引っ張ってきた4年生からは、「感無量」「リーグ昇格の目標を目指し、がんばってもらいたい」と後輩たちへメッセージが伝えられました。



ダンスサークル

楽笑・「JAMMIR TRippin (ジャミトリ)」



JAMMIR TRippin

ストリートダンスが街の中で流行り、本学の随所においても休み時間等を利用して、ダンスを行う学生の姿がここ数年見られるようになりました。そのダンスブームに乗るかのように本学の東生駒、学園前の両キャンパスにおいてもダンスサークルが立ち上がっています。

東生駒キャンパスのダンスサークル「楽笑」（代表 夏田 亮君、部員総数、54名）は2005年に立ち上がり、東生駒キャンパスを拠点に活動していましたが、学園前キャンパスのメンバー増加に伴い、今年から週に一度学園前キャンパスでも活動するようになりました。練習の際は音楽を流す必要があるため、全ての講義が終了した18時から20時の間、練習しています。

学園前キャンパスのダンスサークル「JAMMIR TRippin (ジャミトリ)」(代表 小松 健太郎、部員総数 6名)は2006年に発足しました。当時の1年生のメンバーが中心となり活動をはじめ、現在も日々練習に励んでいます。部員数は多くありませんが、学園前キャンパスのメンバーを中心に活動しています。

両サークルともにダンスの好きな仲間が集まり活動しており、今年のあかね祭及び紅色祭において、共にダンスを披露しました。特に紅色祭のダンスパニックでは、日頃の練習成果を遺憾なく発揮し、来場者から大きな拍手が沸き起こっていました。



課外活動団体による ボランティア清掃活動について

今年の7月から、学生会のクラブ連合協議会の声掛けで、クラブ・準クラブ（体育会系・文化会系とも）の各団体が、大学から東生駒駅までの通学路及び近隣住宅街の一部において、週二回（月曜日と水曜日）清掃活動を行っています。多くの団体が大変積極的に参加してくれており、近隣住民の方々から清掃活動中、感謝の言葉をかけられることもしばしばあります。今後も、近隣地域への貢献活動として、大学を代表してクラブ・準クラブの各団体がこの活動を続けていきます。



今年の7月から、学生会のクラブ連合協議会の声掛けで、クラブ・準クラブ（体育会系・文化会系とも）の各団体が、大学から東生駒駅までの通学路

第27回 全日本中国語スピーチコンテスト 奈良県大会第2位!!

10月17日に、第27回全日本中国語スピーチコンテスト 奈良県大会が開催され、多くの学生や一般の方が参加する中、本学経済学部の中野 麻惟さんが、朗読の部で第2位に輝きました。

本大会は、奈良県における中国語学習の普及と質の向上を目指し、日本と中国の相互理解と友情を深めることに寄与することを目的として、奈良県日中友好協会が毎年開催しています。本学からは中野さんのほか3名の学生が参加し、健闘しました。



民俗よもやま話

帝塚山大学評議員(元・帝塚山大学学長)
国立歴史民俗博物館名誉教授・文学博士

岩井宏寛

七福神

正月には七福神詣をする。七福神は、大黒・恵比寿・毘沙門天・弁才天・布袋和尚・福祿寿・寿老人をいう。こうした福神は室町時代末期の社会的状況の中で生まれた。その時代は多年の戦乱のあと、人々の疲弊極に達していた。そうしたひととき苦中楽を求め、それが切実な中にもおおらかに表現したのが、七福神の微笑んだ顔貌とふくよかな姿態であった。

当時すでに京の町衆の間に福神を崇拜する風があつて、西の京の夷三郎、叡山の三面大黒、鞍馬の毘沙門天、竹生島の弁財天などが

個々に信仰されており、それに禅画の画題として布袋和尚を加え、さらにもう一つの南極寿星の化身の仙者で、当時福祿と寿老を求める人々の願望に応えて、福祿寿と寿老人の二神に分けて、「七」という名数に合わせて七福神とされたのであった。

そして江戸時代後期に、多くの神仏を巡って礼拝することによって、多大のご利益を賜うことができるといふ真意から、「七福神巡り」の風習が生まれ、今日では全国で二百四十余カ所で七福神巡りがおこなわれている。



大学院所蔵資料紹介

「黒漆蒔絵螺鈿洋櫃」

帝塚山大学大学院人文科学研究科博士修論誌「年 刀襦 都末



十六世紀に日本に渡航してきた南蛮人たちは、絹織物や銀を主な貿易品としており、屏風、刀剣、漆器などは単なる土産物でした。しかし、十七世紀に入ると漆器に対する関心が急速に高まり、貿易品としての確固たる地位を築いたことが、当時来日した南蛮人の手記や報告書からわかります。

今回紹介する資料は、長方形の箱に蒲鉾型の蓋をつけ、

蝶番でとめた櫃というもので、最も多く輸出された漆器のひとつです。わが国ではこれを聖遺物箱と呼んでいました。櫃の大きさは多様ですが、本品は、横十七・五センチ、奥行九・七センチと小型で、上部に提金具を、正面に鍵をつけており、宝石や化粧品を入れたものと思われる。全体に黒漆を塗り、緑に李朝風の螺鈿を装綴文で廻らし、金の平時絵で両側面と背面に南蛮唐草を描いています。

輸出用の漆器が材料も技術的にも素朴であることが多いのは、贅美を尽くすことが求められていた国内需要を満たしたうえで、比較的安価で南蛮人の求めに応じる必要があったからと思われる。この黒漆蒔絵螺鈿洋櫃も、技術的にも稚拙な面が見られますが、それはこのような時代背景を窺わせてくれるものといえます。

冬の風物詩 キャンパスイルミネーション

東生駒・学園前の両キャンパスにおいて、今年も冬季イルミネーションを実施しました。東生駒キャンパスでは、12月1日から12月25日まで、正門前のケヤキの木や時計台の前の木並計6本の木々にブルーとホワイト、オレンジのイルミネーションが施されました。学園前キャンパスでは、学生がデザインから飾り付けまでを担当し、「海からのおくりもの〜Happy Xmas〜」をテーマに、12月8日から12月25日まで、駅正面の18号館入り口デッキから屋上、はとの広場を中心にイルミネーションを行い、冬の雰囲気盛り上げていました。

新刊紹介



『児童心理学の最先端-子どものそだちを科学する』

現代生活学部教授
南 憲治 著

あいり出版
1,995円(税込) 2009年7月発行



『風俗絵画の文化学-都市をうつすメディア-』

松本郁代・出光佐千子 編
人文学部教授
源城 政好 共著

思文閣出版
6,825円(税込) 2009年7月発行



『医者の変』

経営情報学部教授
伊藤 範子 訳

松籟社
2,100円(税込) 2009年9月発行



『大学連携 eラーニング TIESの教育改革』

経済学部教授
中嶋 航一 編著

NPO法人 CCC-TIES
2,625円(税込) 2009年8月発行



『経営戦略の理論と実践』

戦略研究学会 編纂
経営情報学部教授
日夏嘉寿雄 共著
経営情報学部准教授
吉村 泰志 共著

扶養書房出版
2,940円(税込) 2009年12月発行

研究室訪問



経済学部 中村 彰宏 准教授

中村彰宏

1970年生まれ、慶應義塾大学大学院 商学研究科修士課程修了後、1996年郵政省(現：総務省)に入省、2000年米田エール女子大学統計学修士、2002年慶応義塾大学大学院博士課程修了、博士(商学)。2003年4月から、本学に経済学部 専任講師として着任し、2005年より、本学経済学部 准教授として勤務する。2004年には、情報通信学会20周年記念賞論文で「個別差(第1位)」を受賞する等、情報通信、交通分野において活躍されています。今回は、経済学部の中村先生にお話を伺いました。

(聞き手：企画・広報課)

企画：先生の専門分野について教えてください。

中村：専門は、経済政策、産業組織論です。総務省にかつて勤めていたので、インターネット、テレビ、電話に関する政策・規制について経済学的に考え、データを使って実証することを専門にしています。

企画：どうしてその分野に進もうと思ったのですか？

中村：学生時代は世界銀行など国際機関に就職したいと考えていたので、大学院に進学しました。大学院では、経済政策について学び、様々な経済政策の授業を受けるうちに、学者になりたいと考えている講師の方の話や大学外部で働いた経験のある先生の話が面白かったこともあり、まずは政策を実際にやっているところに行こうと思い、履修に関わりました。旧郵政省で働いていたので、通信に関する分野に進むようになったのがいきさつですね。

企画：先生は、文部科学省から科学研究費補助金を取得されていらっしゃるようですが、その研究内容及びその研究に着目された理由について教えてください。

中村：インターネットサービスに焦点を置いた通信市場について、ネットワークインフラ市場*1、アプリケーション市場などの各段階におけるネットワ

ーク外部性を考慮したスイッチングコスト*2等について研究しています。

例えば、インターネットや携帯電話には「ネットワーク効果」というものがあります。

一人しか利用者がいない電話とかは意味がないですね。だから、誰かが新しく入ってくると、既に加入している人にとってもメリットがある。加入者数が多いことが重要だったりするわけで、この手のサービス分野では加入者を増やすための政策やそのための分析方法についても考えます。

この分野について、10年ほど前から着目していたのですが、当時ちょうど携帯電話等の市場が伸び始めた時期でした。ただ、大御所の先生方で研究していらっしゃる方が少なく、経済学がわかり、かつ携帯電話のことも理解している人間の必要性を感じ、研究を始めました。

企画：では、先生のゼミの内容について教えてください。

中村：ゼミでは、データを使って検証するというところを行っています。確かめたいことを各自で決めて、それに対して仮説を立て、その仮説を確かめるためのアンケートを作成し実施します。

2年生のときは、データを使って検証することの面白さを実感してもらいたかったので、テーマは自由になっています。例えば、「映画産業の低迷はDVDの浸透が原因であり、DVDを見る人ほど映画に行かない」事を検証するなど、本当に身近な事象を取り上げます。

そして3年生になれば経済学やビジネスにつながるテーマを選んでいきます。基本的に2人1組で調査を行い、提案力、問題解決力を身に付け、論理的に考える力をつけるため、ディスカッション形式を取り入れて、テーマについて発表し、議論



を交わっています。

企画：授業では特にどういったことに気を付けられていますか？

中村：授業では、経済政策の中でも、学生にとって身近なゲームや携帯電話に関する政策を取り上げ、講義内容そのものに興味を持ってもらうようにしています。また演習形式の授業を進める上では、ゼミ同様ディスカッションをよく行うのですが、そういった場で活発な意見交換ができるように、みんなで野球観戦に行くなどして全員のコミュニケーション力を上げるようにしています。

企画：最後に学生へのメッセージをお願いします。

中村：社会に出るからは、仕事をすることでコミュニケーション能力を問われることが多々あります。机の上の勉強も大切ですが、学外の活動から学ぶこともたくさんありますので、人と人との繋がりを大切に、積極的に外に出てコミュニケーション能力を高めましょう。

*1 ネットワークインフラ市場・・・ネットワーク設備についての競争。電話網をどの会社が構築し、どの契約を取るか等。通信企業の中には設備を他社から借りてサービスを提供する企業もある。
*2 スwitching cost・・・接続と利用している設備やサービスから他社へ乗り換える際に生じる心理的・経済的なコストのこと。

卒業生紹介



奈良豊澤酒造 株式会社
林 泰弘 さん

経営情報学部 2002 年卒業

9月11日にオープンした近鉄・大和西大寺駅構内ショッピングモール「Time's Place Saidaiji」の豊祝醸造元（奈良豊澤酒造株式会社）が直営する立ち飲み処「豊祝」で、副店長を務める林泰弘さんにお話を伺いました。

奈良豊澤酒造株式会社は明治元年に創業し、今年で142年目を迎え、過去8回全国新酒鑑評会で「大吟醸 豊祝」が金賞を受賞している由緒ある醸造元です。

林さんは副店長として、他のスタッフの指導やお店の雰囲気作りなどマネジメント業務を任されています。またお客様に美味しい日本酒を飲んで頂くために、一品料理をお酒に合うように少し

薄味にしたり、お酒の温度をあまり変化させないようにしたりと、味の追求と管理に人一倍気配りをしているそうです。夕方の6時を回れば、駅構内にある「豊祝」は、仕事帰りに一日の疲れを癒すために立ち寄る社会人で込み合います。ついついお酒を飲みすぎてしまったお客様を駅のホームまで送ることもしばしばとか。

仕事の目標について「当面の目標は、『豊祝』のファンを増やすこと。そのために目配り、気配りは欠かさない。そして『豊祝』を日本一の立ち飲み処にしたいです。」と、仕事への意気込みを熱く語っていました。

学生時代は、クラブ活動に打ち込んだという林さん。体育会競技スキー部に所属し、学生生活はクラブ中心の毎日、学校・クラブ・アルバイトの往復でしたが、クラブで鍛えた精神力と皆と一つの目標に向かって努力する素晴らしさを学び、満足しているそうです。

最後に、後輩へのメッセージとして「学生時代に人の縁を大事にすることや礼儀を学び、学ぶべきことをきちんと学べば最低限就職というスタートに向かって準備はできると思います。あと面白くなさそうなことでも一度前向きにやってみることでいい。文句の多い人ほど何も形は残せないと思います。がんばってください。そして良かったらうちに飲みに来てください。」との言葉をいただきました。



株式会社 味の和路
竹中 ゆい さん

現代生活学際食物栄養学科 2008 年卒業

現在、味の和路で営業企画として活躍する竹中ゆいさん。管理栄養士の資格を持つ竹中さんは、商品開発から原価計算まで任せられ、シーズンごとの新しいお弁当やアレルギー対応のお弁当などを考案しています。

在学中は、藤井教授のゼミに所属し、細菌や微生物の観察や、キノコの培養の授業が好きだったとか。卒業研究では、市販サバ

リメントのビタミンCの定量実験を行い、パッケージに記載のとおりビタミンCが含まれているのか、値段、味、特徴など、様々な角度から比較、検証したそうです。

実は、竹中さんが管理栄養士の試験に合格したのは働き始めてから（現在、食物栄養学科では卒業と同時に管理栄養士国家試験が受験可能。竹中さんが在学していた時は一年間の栄養指導に従事する必要がありました）。入社後すぐ、社長から「管理栄養士を目指してみない？」と声がかかったのをきっかけに、業務の傍ら国家試験合格を目指すことになりました。

本学の管理栄養士国家試験対策の特別講義を利用しながら勉強に励み、既卒合格率が9.4%（08年）だったにもかかわらず、見事一発合格を果たした竹中さん。仕事と勉強の両立は大変だったのでは？と尋ねると、「会社が資格取得を全面的にバックアップしてくれていたのが大丈夫でした」と笑顔で答えてくれました。

目下、お年寄りにも食べやすいお弁当や、女性向けのヘルシー弁当などを考案中だそうです。「自分ならではの視点を企画に生かしたい」と夢を語ります。

管理栄養士国家試験を間近に控える後輩たちに何かメッセージはありますか？と尋ねると、「試験を目前にして、精神的に大変だと思いますが、大学で培った実力を発揮できれば大丈夫！頑張ってください」と、力強いエールを送ってくれました。

研究表彰

(財)三井住友海上福祉団体
財団賞受賞

心理福祉学部 蓮花 一己 教授

蓮花教授の研究課題「高齢ドライバーのリスク回避及びリスクテイキング行動の実証的研究」が、(財)三井住友海上福祉団体財団賞に選ばれ、表彰されました。

平成21年度日本簿記学会賞受賞

経営情報学部 橋本 武久 教授

橋本教授の著書「ネーデルラント簿記史論—Simon Stevin 簿記論研究—」(同文館出版 平成20年12月発刊)が、日本簿記学会賞を受賞しました。

公益信託マイクロソフト
知的財産研究助成基金
第6回助成事業に選定

法政策学部 末吉 洋文 准教授

末吉准教授の研究課題「植物品種保護に関わる国際レジームの現状の課題—東アジア地域を中心として—」が、公益信託マイクロソフト知的財産研究助成基金第6回助成事業に選ばれました。

CLOSE UP PEOPLE
表紙
 の人

榎田 翔伍さん



枚方・寝屋川市消防組合 大阪府警察本部内定!!

本年度、関西 大学Bリーグ5位という好成績を収めたラグビー部でレギュラーとして活躍した、法政策学部 公共政策学科行政・国際公共政策コース4年の 榎田 翔伍さんが、幼い頃からの夢であった、枚方・寝屋川市消防組合の内定を獲得しました。榎田さんは、中学生の頃の職場体験で消防署を見学したことがきっかけで、消防士になりたいと思い、公務員対策が充実している本学を選んだそうです。1年生の時から、大学の図書館を利用して公務員試験合格のための勉強に励んでいました。榎田さんは、枚方・寝屋川市消防組合のほか、大阪府警察本部の内定も獲得しています。就職活動を振り返り、「ラグビーを通して学んだ前向きに考える姿勢が、就職活動に役に立ちました」と語る榎田さん。文武両道で、夢を実現した榎田さんの社会人としての活躍が期待されます。



「今回のあかね祭では「地域との関わり」が大きなテーマだったため、地域に貢献できる場所に売上金を寄付したい」という、あかね祭実行委員会の意思に基づき、8月5日、本学園前キャンパスにて、あかね祭における野菜等の売上金52,930円が、同実行委員会代表 井上慎也君（現代生活学部食物栄養学科3年）から（社）平城連都1300年記念事業協会 事務局次長 田中敏彦さんに手渡されました。田中さんより、「学生からの寄付は初めてのことで、大変喜ばしく思います。本事業の成功のために、若い人々の力をさらに結集させたいと思っておりますので、こういう志がその契機となれば」との謝辞をいただき、二人は笑顔で握手をかわしました。この寄付金は来年開催の平城連都1300年記念事業の推進のために活用されます。

（社）平城連都1300年 記念事業協会に、あかね祭売上金を寄付

帝塚山短期大学

猪股 静彌 名誉教授が逝去
 （享年86歳）

帝塚山短期大学名誉教授 猪股 静彌（いのまた・しずや）氏が9月8日（火）、呼吸不全のためご逝去されました。猪股名誉教授は、大分県出身。法政大学文学部国文科卒業後、昭和62年4月帝塚山短期大学助教授に着任されました。専門は国文学。昭和63年4月からは、同短期大学教授、平成7年4月より同短期大学名誉教授に就任されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

心理福祉学部

渡辺 嘉久 教授が逝去
 （享年67歳）

帝塚山大学心理福祉学部教授 渡辺 嘉久（わたなべ・よしひさ）氏が10月16日（金）、頭下腺腫瘍のためご逝去されました。渡辺教授は、大阪府出身。関西学院大学社会学部卒業、関西学院大学大学院文学研究科博士課程「教育学」を経て、関西女子短期大学教授、関西福祉科学大学教授を務められたのち、平成16年4月帝塚山大学心理福祉学部教授に着任されました。専門はダイバーシヨナルセラピー。謹んでご冥福をお祈りいたします。

ポートランド州立大学ジュディさんと学生の「同窓会」

協定校のポートランド州立大学（アメリカ）に留学した学生にとっては「お母さん」的な存在で慕われている同大学の国際交流担当、Judith Van Dyckさんが11月20日來日し、東生駒キャンパスを訪問。これまでの留学生ら約15人も参加して、懇親会が開かれました。Judithさんは、本学の留学生から「ジュディ」の名で親しまれ、悩み事の相談や手続きなどの様々な窓口になってくださっています。久しぶりにJudithさんに会った学生たちは、留学で身に付けた英語を駆使してしっかりコミュニケーションをとっていました。同窓会のように学生に囲まれたJudithさんは「またポートランドに来てくださいね」と話していました。本学では、現在アメリカ、スペイン、中国など6ヶ国12校の協定校があり、毎年学生を送り出しています。



Judithさん（前列中央）を囲んで記念撮影

職員紹介

元気になってもらいたくて

田中 淳

学園前キャンパス 学生支援センター
 キャリアセンター勤務



皆さんは学生生活を送る上での関心事は何でしょうか？クラブ・サークル・アルバイト・学業・資格取得・交友関係・・・中でも気になるのは、一生を決めるかもしれない「就職」もあるのではないのでしょうか？私はその気になる「就職」に対し、皆さんにあった職業、自分の力を発揮出来るフィールドを一緒に探し、手に入れるために「資格取得講座」や「インターシップ」「各種ガイダンス」等を通じて皆さんをサポートしています。中でもキャリアセンター利用者・来室者には特に「明るく・元気」になってもらいたいですね。そのためには自分も常に明るく、元気で居る事が出来る様、毎日の「筋トレ」は欠かしておりません（笑）。「シュウカツ」に必要な事は、学生時代に力を入れたことも大事ですが、社会人の基本としての「挨拶」からと考えます。知っている人だけでなく、学校で出会う人とも挨拶してみましょう。まずは私を「挨拶」の練習台としてご利用ください！

未知の世界へ！

榎井 謙一

東生駒キャンパス 学生支援センター
 キャリアセンター勤務



就職活動に対しては、「メンドクセー」とか「しんどー」とかネガティブなイメージを持っている人が多いと思います。そりゃそうだ、どのテレビ・新聞でも「不景気」だの「就職氷河期」だの、暗いニュースしか流さないから（これはオトナの責任ですね）。でも、就活って意外にオモシロイんです！なぜなら、就活は今まで知らなかった未知の（オトナの）世界への第一歩だから。「知らなかったことを、知ること」は皆さんをコドモからオトナに成長させてくれます。キャリアセンターでは、皆さんの就活に対する「ハードル」を余裕をもってこえられるよう、アノ手コノ手でもって取り組んでいます。就活を通じて「カッコいいオトナ」になりたい人、キャリアセンターに来て、いろんな話をしてみませんか？

本学に在籍する外国人留学生在が日ごろ感じていることや考えを日本語で発表する「第12回留学生日本語スピーチコンテスト」が10月12日、大学祭でにぎわう東生駒キャンパスの6号館6108教室で開催され、人文科学部日本文化学科4年、オウ・カさん(右の写真)が見事優勝しました。

このスピーチコンテストは本学で学ぶ外国人留学生のために、習得した日本語の発表の場を設け、その能力の向上を図るとともに、外国人留学生と一般学生、さらに地域の方々との交流を深めることを目的に毎年、大学祭「虹色祭」にあわせて開かれています。今年で12回目を迎えたコンテストには10名が挑戦。司会進行も留学生が行い、中国、ミャンマー、ネパールの留学生が参加しました。

テーマは「曖昧な日本語」「日本での生活」など留学生ならではの内容や「出会いのチカラ」「未来」「夢に向かって」など、希望に胸膨

らます若者らしいものが目立ちました。優勝したオウさんのテーマは「夢に向かって未来へ…」でした。「夢というみなさんは何を連想しますか?」の問いかけで始まったオウさんのスピーチは、大学生活を振り返ると同時に、ずっと夢を持ち続けていることのすばらしさを述べるもので、語りかけるような流暢な日本語は、会場の日本人も舌を巻くほどでした。なかには緊張のあまり途中で言葉に詰まる留学生もいましたが、一所懸命に話そうとする姿に観衆は惜しみない拍手で応えていました。

また、一般学生らによる中国語朗読コンテストも同時に実施され、4名が参加しました。両コンテスト終了後は、学内のパーベキューコーナーに会場を移し、参加者と来場者が肉や野菜を焼きながら、国際交流談義に花を咲かせました。

コンテストの結果は、以下のとおりでした。



第12回 留学生日本語スピーチコンテスト
第6回 中国語朗読コンテスト

■日本語スピーチコンテスト

順位	氏名(出身国)	所属
優勝	オウ・カ(中国)	人文科学部 日本文化学科
準優勝	シュエ・シン・タン (ミャンマー)	経営情報学部 経営情報学科
3位	ヒョウ・タイレイ (中国)	人文科学部 英語文化学科
特別賞	コウ・ショウナン (中国)	経営情報学部 経営情報学科

■中国語朗読コンテスト

順位	氏名	所属
優勝	吉原史彬	経済学部経済学科
準優勝	中野麻惟	経済学部経済学科
3位	海野稜来	経済学部経済学科
3位	落合昌代	学生生活課 国際交流担当職員

2010年度 帝塚山大学・大学院 これから出願・受験できるAO入試・一般入試

帝塚山大学

区分	選考・試験日	出願期間	試験会場	合格発表	
一般入試	A日程	1月26日(火)	☆1月6日(水)~1月20日(水)	2月6日(土)	
		1月27日(水)			
		1月28日(木)			
	B日程	2月18日(木)	☆1月25日(月)~2月12日(金)	2月27日(土)	
		2月19日(金)			
	C日程(心理学科は実施しません)	3月11日(木)	☆2月22日(月)~3月5日(金)	本学(東生駒)	3月14日(日)
大学入試センター試験利用	前期	大学入試センター試験利用。	1月6日(水)~2月4日(木)	—	2月13日(土)
	後期	個別学力検査は実施しない。	2月22日(月)~3月5日(金)	—	3月14日(日)
AO(3月)(心理学科は実施しません)	3月11日(木)	☆2月22日(月)~3月8日(月)	本学(東生駒)	3月14日(日)	

【出願期間】最終日の消印有効。☆は最終日翌日の願書持ち込み可(土日除く)。

帝塚山大学 大学院

区分	選考・試験日	出願期間	試験会場	合格発表
人文科学研究科日本伝統文化専攻(博士前期課程)	2月9日(火)(筆記) 2月10日(水)(口頭)	1月25日(月)~2月1日(月)	本学(東生駒)	2月17日(水)
人文科学研究科臨床社会心理学専攻(修士課程)	2月9日(火)(筆記) 2月10日(水)(面接)		本学(学園前)	
経済学研究科経済学専攻(博士前期課程)			本学(東生駒)	
法政策研究科世界経済法制専攻(博士前期課程)	2月9日(火)又は10日(水)			
人文科学研究科日本伝統文化専攻(博士後期課程)				
経済学研究科経済学専攻(博士後期課程)	2月9日(火)			
法政策研究科世界経済法制専攻(博士後期課程)				

【出願期間】最終日の消印有効。

*入試情報は専用のホームページhttp://www.tezukayama-u.ac.jp/opencampus/examでも案内しています。

*各方式の試験科目・試験地など詳細については「学生募集要項」でご確認ください。

■学生募集要項・大学案内の請求は入試課まで(送料とも無料でお届けします。)

【帝塚山大学入試課】 〒631-8501 奈良市帝塚山7-1-1

TEL 0742-48-9149 FAX 0742-48-9021

E-mail: nyushi@jimu.tezukayama-u.ac.jp



大学通信「帝塚山」企画編集委員会
〒631-8501 奈良市帝塚山7丁目1-1

TEL.0742-48-9341 FAX.0742-48-9030 E-mail:koho@jimu.tezukayama-u.ac.jp

URL: http://www.tezukayama-u.ac.jp/

保護者の方々からの声をお待ちしております

「大学通信帝塚山」は大学の各種情報を多くの方々を知っていただくと同時に、保護者の方々との双方向コミュニケーションの促進を目指しています。本誌の記事、本学の教育・研究内容などについて保護者の皆様からのご意見・ご感想をお待ちしております。いただいたご意見等は次回以降の「大学通信帝塚山」に反映させていただきます。

*宛先は左記を参照してください。なるべく、ご住所、お名前、電話番号の記入をお願いいたします。